



## 1964東京五輪と空飛ぶ料理人

◇今回は、小瀬木周司さん（獨協大学外国語学部卒、そば処山九）のレポートです！

8歳の時、初めてカラーテレビで東京オリンピック閉会式の実況中継を見た。いつの日か世界中の人々と仲良く楽しく何かがしたいと思った。その何かをずっと探し求めた。五輪閉会式で各国の選手が様々な民族衣装でバラバラに入場し、代々木のメインスタジアムは平和な人種のるつぼと化した。すべての競技、戦い終われば、長年の友の再会のように肩を組み、輪になって踊る。テレビの向こうは本当に楽しそうに見えた。

旭中に入学、柔道部に入部。帰宅するとNHK教育テレビ、ラジオの英語会話を録音テープに収録し何度も何度も聞いていた。中3の夏、富士山麓、朝霧高原のボーイスカウト世界ジャンボリーに参加できた。月面に降り立ち、6億人のテレビ視聴者に向け "That's one small step for man, one giant leap for mankind." と言ったニール・アームストロング船長が、岐阜県代表の僕らの野営地にやって来た！僕も人類初の感動のシーンを見たひとり。見上げるほど背の高い船長が、アメリカ英語で握手して僕らに語った。何をいっているのかわからなかった。中学の英語の成績はよかったのに、米国語は異星人の言葉かと思った。

1973年、関高校入学。川ガキだった僕は、それまで200メートルくらいしか泳げなかった。親友に口説かれ水泳部に入部、その殺文句「水泳部に入ると背が伸びるで!」。関高で3年、1年留学の4年間、ほとんど伸びなかった。入部早々、鬼コーチ北野先生率いる水泳部の厳しい練習についていけず仮病をして休むことが多くなり、2年生でマネージャーなり丘に上がる。春に入部した同級生らが、水温が冷たくなる晩秋のプールで厳しい練習を耐え抜いているのに自分ひとり逃げた、自信を失う。

同時通訳の國弘正雄先生による世界の各界の要人インタビューとケン・マクドナルド氏のBBC放送配給番組をNHKで聞き続ける。

チャンスが3年生になる前、早春に訪れる。関ロータリークラブがオーストラリアの高校へ初めて交換留学生を派遣することになった。外の世界を見たい！英語力をもっとつけたい強い思いで決心。

1974年-75年、ゴールドコースト市サーファーズパラダイスのホストファミリーにお世話になり、マイアミハイスクールに通学した。当時ゴールドコーストには、今のように日本人サーファーなどひとりもいなかった。日本人女性がただひとり永住していた。進駐軍のオーストラリア兵と結婚した広島の出身の方だった。初めてご挨拶に彼女の家に行いった。帰り際に、「またいつでも遊びに来てね。」と彼女が言った。次にお会いしたのは帰国の挨拶だった。「もっと会いに来て欲しかったのに。」と老婆が寂しげに言った。今、思えば本当に悪いことをしたと思う。僕としては日本語を話す機会を極力避け、英語三昧の日々を貫きたかった。半年が過ぎた頃、夢の中でも自分が英語をしゃべっているようになった。しかし相変わらず物理、数学の授業はサッパリわからなかった。日本語でもよくわからないから仕方がないと自分を慰めた。体育とスポーツイベントは最高に楽しかった。全校クラス対抗の競泳大会が、サ

ウスポートのオリンピックプールで開催された。なぜかクラスの中で 200 メートル 4 種目個人メドレーが泳げるのは僕だけだった。クラス代表で泳いだ結果はよく覚えていないが、上位ではなかった事は確かだ。クラスメイトが応援してくれたのは嬉しかった。以来、当時のクラスメイト、ホストファミリー、多くのオーストラリアの友人と 45 年間交流をしてきた。文字通りサファーフインをする人々の天国！サファースパラダイスは、ほぼ毎日が紺碧の海と晴天の天国！気さくでおおらかなオージーらと僕は馬が合った。1 年は夢のように過ぎ帰国、関高校 3 年に復学。水泳部で一年後輩だった生徒たちと同じ教室で学ぶことになった。苦手な数学のある日は、仮病を使い不登校、得意な英語の授業の日は、元気に登校した。担任の岩田先生もあきれていた。それでも無事に卒業させていただき、今も感謝しています。

80 年、獨協大学英語科卒業、オーストラリア大使館直轄の日豪学術文化センターに勤務。半年後、所長と僕は豪州政府のリストラで解雇。関市の実家に戻り父に相談したら、「迷ったら禅寺だ、正眼寺の谷耕月老師さんに会ってこい」。アポ無しで自転車で伊深の正眼寺に着く。耕月老師様は留守だった。 どういうわけか雲水が閑栖老師である梶浦逸外老師様の隠居部屋へ僕を通した。「合気道の道に進みたいのですが。」と心の迷いを伝えると、「馬鹿者！お前さんは、ワシもよく知っておるレストランの長男だ。父を師匠として料理の道へ進め！」当時、胃癌と診断されていた 90 歳の引退した老大師様とは思えないど迫力で一喝！その場を退いた。自転車をこぎながら泣いて帰った。

後日、耕月老師様に会い、参禅を許され秋から翌年早春まで、在家の居士として剃髪し、雲水と同じ修行に入る。耕月老師様のご縁で、高田馬場の茶懐石料理店に見習い修業に入る。「石の上にも三年やぞ、頑張ってこい！」と老師様に言われたが、1 年 2 ヶ月で逃げだす。挫折を味わう。大学 3 年の時に始めた合気道を続けていた。関市の実家に帰り、家業を手伝いながら週一回の合気道の稽古で汗を流した。鬱状態から抜け出し、気力が回復した。

89 年、人生の転機が訪れた。「シドニーのレストランで料理長として働かないか。」とシドニーに移住していた大学時代の先輩から一報。即決断、永住ビザ取得、両親には 3 年時間をくださいと告げ、単身シドニーへ移住。その店で 3 年契約で勤務、毎月千ドル貯金をして独立、出張料理教室/ケイタリング業を起業。日本人として初のシドニー青年会議所第 60 代理事長に指名され、多国籍移民社会シドニーの様々な文化、宗教の会員 45 名を 1 年率いる。

シドニーモーニングヘラルド紙、「美味しんぼ」で紹介されたタスマニア産そばの実を石臼挽きする超人気店の手打ちそば/うどん店「Shimbashi Soba」の柴崎好範氏に 3 年 2 ヶ月フルタイムで師事。現在、柴崎氏はシンガポール店でアジアの若者らにそば打ちを指導中。

UNSW 大学で合気道部を創設し、休日に指導、普及活動を 10 年間した。合気道クラブは学生、卒業生、大学の先生、高校生、一般市民が入部できる。ある日、出張料理教室で同大学近くのカトリック系カレッジ(高校)に行った。車から教室へ食材、道具を搬入していると制服姿の女子生徒が声をかけてきた、「Hi, Ozeki Sensei! What are you doing here?」 見ると大学の合気道クラブで教えているナンディアだった。それまでずっと彼女が大学生だと思っていた。ナンディアは同大学に入学、合気道の有段者になり、卒業後ロンドンで就職し結婚した。今は Facebook 友だが 20 年以上のお付き合い。29 年前に合気道の種まきをし、今では豪州主要都市に 13 支部道場を有する全豪組織になりました。一般会員は何人いるのかよく分かりません。この 4 月、ブリスベン市クイーンズランド大学で開催した恒例の秋の合気道キャン

プを指導をしたとき、全国の子供会員は 200 人以上いることを知りました。



ブリスベン市の合気道支部道場子供クラスで指導 2018年4月

秋の全豪合気道キャンプで指導 クイーンズランド大学 武道場 2018年4月



豪州での合気道普及活動が地元紙に掲載

西豪州パース、インド洋のビーチ 2012年5月

99年、父が病に伏し帰国、家業の飲食店に復帰。手打ちそば屋として再スタート、英語で和食を指導し始める。2000年シドニー五輪は現地で見れなかった。

2015年、シカゴ国際見本市に出展した関市の刃物会社のブースで包丁さばきを披露し、現地のレストランでそば打ちを披露する。ルフトハンザドイツ航空の機長の支援でベルリン、フランクフルトのレストランで200名のお客様に、各地のオーナーシェフらとコラボでそば打ち晚餐会を4回開催。お客様の中に、愛知県出身の特命全権大使の中根猛ご夫妻が出席。

2016年、スペインのカタロニア、フランクフルトのレストランでそば打ちをして現地オーナーシェフらとコラボで5コースの晚餐会を開催。

2018年、再びベルリンのフランス料理店と、初めてのベルギーで寿司屋と札幌ラーメン店でそば打ちを披露し、200名のお客様にコラボで晚餐会を5回開催。



フランス料理店 Pastis で5 コースの晩餐会 ポークスペアリブの角煮 ベルリン 2018年 5月  
100名の晩餐会后、午前3時すぎの夜食は鴨せいろ ベルリン 2018年 5月



QuintaForca Restaurant シェフらとコラボ新そば会 スペイン、カタロニア 2016年 11月  
100名のお客様にお蕎麦の食べ方など英語で説明。仏レストラン ベルリン 2015 晩秋

語学力上達の手段は、今の学生のほうが格段に恵まれている。ウィンドウズ'95 以来 PC あり、あらゆるソーシャルメディアが使いたいほうだい。県内在住の英語圏の住民も多い。

11年前から Facebook, YouTube, 自分の英語版サイトで、そば打ち、和食、郷土と日本の誇る四季の

味覚、名物、名所などの画像と動画を内外に向け、英語で発信しています。このまめな作業が英語表現力の上達になります。料理教室は、自作英語レシピと英語で楽しく和食を作り、食事で歓談します。35ヶ国語から400人以上が受講、熱心なシェフらの中には関市を目指して何度も来日されます。



リピーターでルフトハンザドイツ航空名古屋便の乗務員、秋の味覚で和食作りを楽しむ

小学2年の時、東京五輪の閉会式を見て心に描いたビジョンを、今年で62歳、長い年月を経て地道に実現しつつあると思います。まだまだ道半ばですが。その間、何度も壁にぶち当たり、見習い調理場で叩かれ、鬱状態、挫折を経験しました。そんな時に、素晴らしい人生の師と友達との出会いがあり道を踏み外さず、和食と合気の道を歩いてきました。

高校進学を目指す中学生のみなさん、現役関高校生のみなさんの中には今、壁にぶち当たり悩んでいるかもしれない。じっと耐え抜いてください。決してひとりにならないで。

今は辛いかもしれないけれどチャンスと輝かしい未来は、必ずその向こうにあります。

自ら行動を起こし、そこまで自分を運んでください！世間では、運のいい人だといいますが、運は自力で獲得するものです。

冬のあとは桜咲く春が来ます！

ユーチューブのチャンネル名"空飛ぶ料理人" Flying Chef Shuji Ozeki

[www.youtube.com/user/shujiozeki](http://www.youtube.com/user/shujiozeki)

英語で作る和食サイト [www.ozekicookingschool.com](http://www.ozekicookingschool.com)

そば処山久サイト [https://peraichi.com/landing\\_pages/view/yamakyusoba](https://peraichi.com/landing_pages/view/yamakyusoba)

ブログ <http://flyingchef.blog.jp/archives/3799155.html>

Facebook [www.facebook.com/ShujiOzeki/](http://www.facebook.com/ShujiOzeki/)



'93年、シドニーモーニングヘラルド紙が、私が3年で州内の200校のハイスクールでランチと和食文化を紹介する様子を特集。2018年2月、毎年日本料理実習で出向く関有知高で「英語でそば打ち実習」初の開催。